

市町村名		豊見城市					
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	新しい公共交通システム可能性調査検討事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア 国際的な沖縄観光ブランドの確立	
担当部課名	都市計画部	都市計画課	事業実施 年度	平成 28	令和 元	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所	
事業内容	市内一周線のバスルート変更後におけるバス利用状況調査、ルート再編の評価、課題の整理をすることで、将来のまちづくりに資するための上位計画及び基本方針を策定する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	合計	
	A. 予算現額	13,889	19,764	11,582	8,110	53,345	
	B. 執行済額	13,889	19,764	11,474	8,109	53,236	
	うち 交付金充当額	11,111	15,811	9,179	6,487	42,588	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	99.1%	100.0%	99.8%	
執行状況の説明	最終的な執行率は99.8%となっており、概ね計画的な執行となった。						
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)	達成状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	○年度	
	新たな公共交通システム導入可能性の調査及び検討	目標	調査及び検討				-
		実績	調査及び検討				-
	市内一周バス再編に向けた検討	目標		調査及び検討			-
		実績		調査及び検討			-
	基幹公共交通システムの検討	目標		検討			-
		実績		検討			-
市内一周線バスの変更に向けた調査、手続き、広報作業	目標			H31年3月完了		-	
	実績			H31年3月完了		-	
バスルート再編後の事後調査、評価、検証及び課題の整理	目標				R2年3月完了	-	
	実績				R2年3月完了	-	
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)	進捗状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	○年度	
	新たな公共交通システム導入可能性調査検討報告書の作成	目標	報告書の作成				-
		実績	報告書の作成				-
	市内一周バス再編に伴う社会実証実験計画の作成	目標		計画書作成			-
		実績		計画書作成			-
	市役所移転後の市内一周線のルート変更前の利用状況の把握	目標			アンケート実施		-
		実績			アンケート実施		-
市内一周バスルートの再編により利便性が確保されたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートで検証	目標				80%	-	
	実績				81%	-	

事業完了後の取り組み						
成果目標(指標)	達成/進捗状況					〇年度 目標/発現年度
		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
<input type="checkbox"/> 中期にわたる事業効果 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度に発現する事業効果						
市内一周バスルートの再編により利便性が確保されたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートで検証する。	目標	80%	80%	80%	80%	
	実績	81%	実施見送り	実施見送り	42.2%	
	目標					
	実績					
事業完了後の成果目標	状況説明	【R2年度】 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、ネットを活用したアンケート調査方法を模索するも実施には至らず調査を見送ることとしたが、「市内一周線バス」のルート変更後は、令和元年10月以降から前年を上回る利用者数を確認できており、満足度は確保されていると類推される。令和3年度については、新型コロナウイルスの収束状況を見極めながら実施を検討する。 ・豊見城市交通基本計画のなかで「誰もが使いやすい公共交通ネットワークの形成」等の基本方針を掲げ「新しい公共交通システムの導入」等として位置付けた。				
		【R3年度】 ・R2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響による利用控えが想定されることから、アンケート調査については今後の収束状況を見極めながら実施を検討するとともに、効果的な実施方法についても検討していく。 【R4年度】 ・市内バス利用者向けアンケートを10月(平日1日)に実施。配布数242件に対し、214名の回答があり(車内・郵送・Webでの回収)、定時性や乗車時間、運行時間に関する満足度の低下などの要因により、成果目標(80%)を下回る結果となった。 また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、利用者総数・乗降客数が減少していたが、R4年度の年間利用者数は79,688人となるなど、コロナ禍による接触機会の抑制が依然として影響しているものの、R1年度実績(80,311人)近くまで回復し、前年同月よりも利用者が増えていることから、利便性はあると考える。				
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)			【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)			
【R2年度】 ・R2年度については、交通事業者等が新型コロナウイルス感染症の影響を受け、事業効果の検証(アンケート実施)を見送った。			【R2年度】 ・交通事業者等の関係者と連携・協働し、「誰もが使いやすい公共交通ネットワークの形成」に繋がるよう路線バスの利用環境の拡充や新しい公共交通システムの導入などに取り組んでいく。			
【R3年度】 ・R2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響による利用控えが想定されることから正確な効果発現状況の把握が難しいと判断し、効果検証を見送った。			【R3年度】 ・R2年度に引き続き、市民生活の向上や地域生活を支える交通体系の構築に向け関係者と連携しながら取り組んでいく。			
【R4年度】 ・市内一周バス(105番)の利用状況は、新型コロナウイルス感染症の流行拡大の影響の中、R2年とR3年と比べ回復傾向にある。 ・平日の高齢者利用者数が増加。 ・市内の利用頻度の週3～4日、週5日以上バスを利用する構成比が増加し定常的な利用が確認できる。			【R4年度】 ・「豊見城市総合交通戦略」の公共交通関連施策を推進するため、交通事業者や関係機関の意見を踏まえて具体的な進め方を整理し、「豊見城市地域公共交通計画」を策定。			
今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)						
【R2年度】 ・将来の交通のあり方に関する基本的な考え方を示し、移動円滑化、環境問題への配慮、地域特性や市民ニーズ、土地利用等を考慮した将来のまちづくりに資するため交通施策の上位計画として「豊見城市交通基本計画」を策定し、基本方針として「誰もが使いやすい公共交通ネットワークの形成」として位置付けた。						
【R3年度】 ・R2年度に策定した「豊見城市交通基本計画」を着実に推進するため、短・中期(5～10年)を見据えて重点的・効率的に推進する施策をパッケージ化し、実施主体やスケジュール、計画目標値及び推進体制を位置付けた「豊見城市総合交通戦略」を策定した。今後、基本方針の具体的な実現に向け施策を展開していく。						
【R4年度】 ・本市の地域の交通課題解決のため令和2年度に「交通基本計画」、令和3年度に「総合交通戦略」、令和4年度には「地域公共交通計画」を策定し、計画の推進に向けては、市民、行政(国、県、市、警察等)、交通事業者、交通に関する団体等がそれぞれの役割分担を把握した上で連携・協働し取り組みを推進していく。						

市町村名		豊見城市					
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	豊見城市いきいき野菜生産支援事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備		
担当部署名	経済建設部	農林水産課	事業実施 年度	平成 24 ~ 令和 2 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所		
事業内容	豊見城市産葉野菜について、市場や量販店が求める定時・定量定品質等の安定供給を推進するためにも、天候悪化に左右されない耐候性野菜栽培施設(パイプハウス)を導入する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		H24-H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	合計	
	A. 予算現額	307,360			38,400	345,760	
	B. 執行済額	307,359			36,560	343,919	
	うち 交付金充当額	245,887			29,248	275,135	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	95.2%	99.5%	
執行状況の説明	事業計画どおりに執行されており、活動目標、成果目標の達成状況からも適正と考えられる。						
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
	耐候性野菜栽培施設導入に対する補助	目標	12,930㎡ 25棟、10農家				5,832㎡ 11棟、5農家
		実績	12,930㎡ 25棟、10農家				5,832㎡ 11棟、5農家
		目標					
		実績					
	目標						
	実績						
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)	進捗状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
	耐候性野菜栽培施設導入の完了	目標	施設の導入				100%
		実績	施設の導入				100%
		目標					
		実績					
	目標						
	実績						

事業完了後の取り組み						
事業完了後の成果目標	成果目標(指標) □ 中期にわたる事業効果 ■ 後年度に発現する事業効果	達成/進捗状況				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度 目標/発現年度
事業完了後の成果目標	野菜(葉野菜類)の反収(10aあたりの生産量) ホウレンソウ 1.1t/10a	目標	1.1t/10a	1.1t/10a		
		実績	0t/10a	2.2t/10a		
	カラシナ 1.3t/10a	目標	1.3t/10a	1.3t/10a		
		実績	0t/10a	1.9t/10a		
	チンゲンサイ 1.3t/10a	目標	1.3t/10a	1.3t/10a		
		実績	0t/10a	2.2t/10a		
状況説明	<p>【R3年度】 ・R3年度より軟弱野菜等の植付開始。施設の利用状況等については現場確認を行った。生産量については、植付開始から最初の収穫がまだ行われていないことから、実績はゼロとなった。なお、生産量の実績値についてはR4年7月に取りまとめる予定。</p> <p>【R4年度】 ・R4.7事業実施主体からの実績報告により反収の実績値確認。耐候性野菜栽培施設を導入したことにより、天候に左右されない安定した軟弱野菜の生産が可能となり、当初計画の目標値を上回る反収を達成できた。</p>					
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)			【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)			
<p>【R3年度】 ・植付開始から最初の収穫がまだ行われていないことから、実績はゼロとなったが、露地栽培から施設栽培への変更に対応するための、栽培技術等が確立されつつある。</p> <p>【R4年度】 ・露地栽培では沖縄特有の自然現象(台風・長雨等)により発育に影響が出て計画的な生産が難しかったが、施設導入により天候に左右されない良質の軟弱野菜を安定して生産することができるようになった。</p>			<p>【R3年度】 ・JAおきなわによる営農指導や推奨種苗等を活用する。また、市場等の動向について情報共有し適正な栽培を行う。</p> <p>【R4年度】 ・豊見城市産葉野菜のイメージアップ向上を図り、市場規模の拡大、定時・定量・低品質の商品提供に引き続き取り組む。</p>			
今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)						
<p>【R3年度】 ・事業の目的である、安定生産や生産農家の経営安定を図るために、市場の動向をとらえた生産体制を構築し販売先の確保に取り組む。</p> <p>【R4年度】 ・露地栽培から施設等を活用したスマート農業への転換を推進し、生産農家の負担軽減および安定経営、ひいては高品質の葉野菜生産による所得向上を目指し取り組んでいく。</p>						